

# 第93期 中間報告書

2022年4月1日~2022年9月30日

## 【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

## 当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維(ナスロン®)を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

## 株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードし続けています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

ここに、当社第93期中間期(第2四半期累計期間、2022年4月1日から2022年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申しあげます。

2022年12月

代表取締役社長 新 貝 元



当社グループは2024年3月期を最終年度とする『中期経営計画(NSR23)』を策定しております。  
 高機能・独自製品の機能・能力増強と持続的成長のための生産基盤の強化について引き続き推進するとともに、ESG(環境・社会・ガバナンス)とサステナビリティ(持続可能性)を経営の軸に織り込んだ内容となっています。

## ビジョン

**Micro&Fine Technology**を追求するなかで、  
 未来の高機能・独自製品を生み出しつづける事を通して  
 社会に貢献し、ESG経営の実践によってステンレス  
 鋼線No.1カンパニーの地位を継続していく。

## スローガン

日本精線リニューアル(NSR)継続推進と  
 高機能・独自製品でサステナビリティに貢献  
**NSR:Nippon Seisen Renewal**  
 高機能・独自製品の上方弾力確保・拡販と  
 持続的成長のための生産基盤強化を目指す。

## 基本方針

1. 日本精線リニューアル計画の継続・推進
2. 新製品開発と新市場開拓でサステナブル社会に貢献
3. 水素を巡る新事業の探索
4. コーポレートガバナンスとコンプライアンスの充実

## 経営目標

連結ROS

(経常利益/売上高)

**10% 以上**

連結ROA

(経常利益/総資産)

**10% 以上**

連結ROE

(純利益/株主資本)

**8% 以上**

連結配当性向

(配当/税引後利益)

**40% 程度**

(連結)  
 高機能・独自製品  
 売上高比率

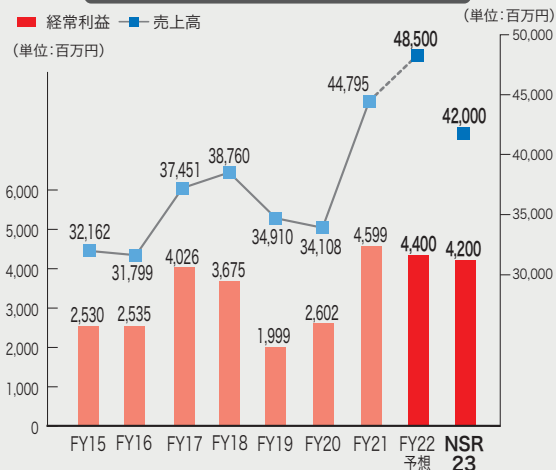
**70% 以上**

CO<sub>2</sub>排出量  
 削減率

(2030年目標)

2013年度比  
**▲30%**

## 売上高・経常利益の推移(連結)



当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症抑制が進む一方で、日米金利差に伴う円安やウクライナ情勢の長期化による資源価格高騰のほか欧米・中国の景気後退リスクなど、引き続き先行きへの不透明感が残っています。

このような事業環境の中で、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という。）は前年度より『中期経営計画(NSR23)』（最終年度2024年3月期）をスタートさせ、「日本精線リニューアル(NSR)継続推進と高機能・独自製品でサステナビリティに貢献」を中期スローガンとして掲げ、高機能・独自製品の販売に注力して企業価値向上に努めております。

結果として当第2四半期連結累計期間の売上高は、247億12百万円（前年同期比15.4%増）となりました。損益については、半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（NASclean®）や太陽光発電パネルなどの製造プロセスで使用される極細線に代表される高機能・独自製品に対する需要の強さが継続したものの、第2四半期に入りニッケルをはじめとする資源の価格高騰に対し販売価格改善の発現の遅れにより利益を押し下げました。営業利益19億42百万円（同18.5%減）、経常利益20億39百万円（同17.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益14億16百万円（同18.6%減）となりました。

なお、中間配当につきましては、すでに公表しておりますとおり1株につき105円とさせていただきます。

事業部門別の経営成績は次のとおりです。

### ステンレス鋼線部門

ステンレス鋼線においては、コロナ禍からの受注

急回復により2021年は建材用ビスや自動車用途ばね用材など幅広いアイテムが堅調に推移し、月あたり3,583トンと高水準の販売量となりました。第1四半期の販売量はニッケル価格上昇を見込んだ駆け込み需要が発生し月あたり3,555トンと高水準の推移を維持するも、第2四半期は仮需要の反動減によって月あたり3,269トン（第1四半期比8.0%減）となりました。結果として、当第2四半期連結累計期間は、月平均販売数量は3,412トン（前年同期比5.6%減）となりました。一方、高合金線や、太陽光発電パネルや電子部品の製造プロセスで使用されるスクリーン印刷向け極細線など高機能・独自製品の販売が堅調に推移しました。

なお、LMEニッケル価格については、2020年度第1四半期から右肩上がりの傾向が続いていましたが、7～9月平均の価格についてはポンドあたり10.00ドル（4～6月平均に比してポンドあたり3.17ドル下落）と落ち着いてきたものの、第2四半期の為替水準が円安（第2四半期平均139.4円/ドル、第1四半期平均比8.8円/ドル円安）となったことから、円貨ベースでは価格高止まりが継続しています。

結果として、当第2四半期連結累計期間におけるステンレス鋼線全体の販売数量は減少したもののニッケル価格上昇に伴う単価値上げにより、売上高203億69百万円（前年同期比13.7%増）となりました。

海外現地法人であるTHAI SEISEN CO.,LTD.及び大同不銹鋼（大連）有限公司についても、ステンレス鋼線の販売は前年同期比増収となりました。

### 金属繊維部門

金属繊維においては、半導体関連業界向け超精密

ガスフィルター (NASclean®) に対する需要の強さは継続しています。その背景には、パソコンや家電に関する巣籠り需要は一巡するも、第5世代移動通信システム (5G) の立ち上がりやデジタルトランスフォーメーション (DX) の普及によりデータセンター向けの半導体の需要が高水準で推移していることに加え、車載用半導体不足の状況が解消されていない点が挙げられます。また、経済安全保障上の重要性がクローズアップされ、半導体に対する大規模な投資が世界各地で進められています。さらに、社会のデジタル化に伴いデータ処理の高速化と機器の低発熱化・省電力化が必要となり、カーボンニュートラルに向けた高性能な半導体に対する需要が高まり、超精密ガスフィルター (NASclean®) の販売が伸びました。

ナスロン®フィルターについては、化合繊維用途や高機能フィルム用途のフィルターの販売を順調に伸ばした耐素龍精密濾機 (常熟) 有限公司が牽引するかたちで、前年同期比増収となりました。

結果として、当第2四半期連結累計期間における売上高が43億43百万円 (前年同期比24.1%増) となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。なお、セグメントごとの経営成績については、セグメント間の内部売上高又は振替高の相殺消去前の金額を記載しています。

#### ■日本

主力のステンレス鋼線は第1四半期の販売量においてニッケル価格上昇を見込んだ駆け込み需要が発生し高水準を維持しましたが、第2四半期は仮需要の反動減が生じました。結果として、当第2四半期連結累計期間の販売量は、前年同期に比べ若干の減少となりました。損益については、第2四半期に入りニッケルをはじめとする資源価格の高騰に対し販売価格改善の発現の遅れにより利益を押し下げました。金属繊維は半導体製造装置に組み込まれる超精密ガスフィルター (NASclean®) に対する需要の強さが継続しました。この結果、売上高は219億88百万円 (前年同期比14.4%増)、セグメント利益は16億87百万円 (同23.3%減) となりました。

#### ■タイ

ステンレス鋼線の販売数量は堅調に推移、また、ニッケル価格の上昇もあり、売上高は31億14百万円 (前年同期比19.3%増)、セグメント利益は1億72百万円 (同23.9%増) となりました。

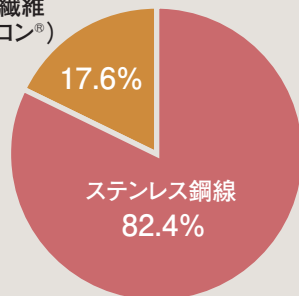
なお、THAI SEISEN CO.,LTD.の決算期を前年の2021年度より変更したため、前第2四半期連結累計期間は7カ月 (3月～9月) となっております。

#### ■中国・韓国

ナスロン®フィルターが堅調な需要に支えられ、売上高は9億39百万円 (前年同期比63.8%増)、セグメント利益は1億18百万円 (同88.7%増) となりました。

■ 部門別売上構成比 (連結) 93期中間

金属繊維  
(ナスロン®)



## 営業の概況

今後の見通しといたしましては、日米金利差に伴う円安やウクライナ情勢の長期化による資源やエネルギーの価格高騰、欧米・中国の景気後退懸念、また多発する自然災害など、多くのリスクシナリオを認識しています。

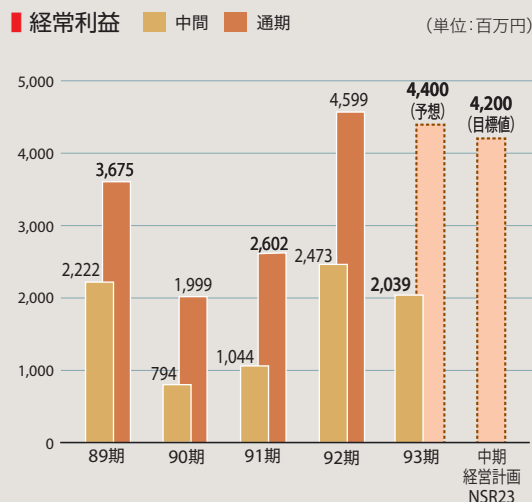
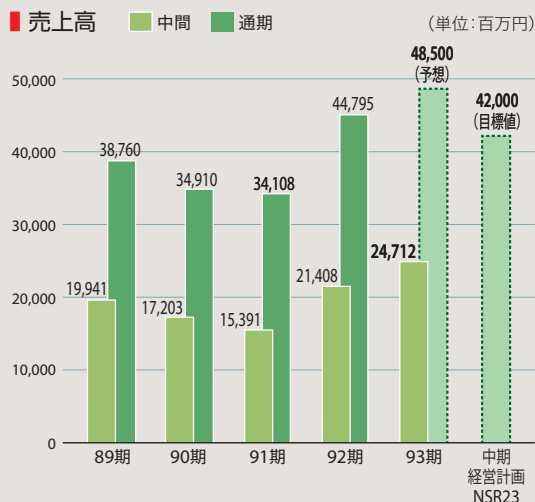
さらに当社グループの主力製品であるステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、同様に、金属繊維(ナスロン®)も化合繊維向けなどの一般汎用製品については競争が激しくなっております。

このような経営環境を踏まえ、当社グループは2021年4月より『中期経営計画(NSR23)』(最終年度2024年3月期)をスタートさせ、「日本精線リニューアル(NSR)継続推進と高機能・独自

製品でサステナビリティに貢献」を中期スローガンとして掲げ、高機能・独自製品の比率を一層高め、企業価値向上に努めています。NSR23の経営目標として連結経常利益42億円、連結売上高経常利益率(ROS)10%以上、連結総資産経常利益率(ROA)10%以上などに加え、2030年CO<sub>2</sub>排出量削減目標▲30%(2013年度比)を掲げESG経営を推進してまいります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では環境、エネルギー、5Gなどサステナビリティ成長分野に極細線、高強度ばね用材など当社グループの高機能・独自製品の拡販に努めるとともに、成長性のある海外マーケットを開拓してまいります。生産面においては、前中期計画から取り組んできました日本精線リニューアル計画(NSR)を継続

### 業績の推移(連結)



※1. 第90期より、連結決算の開示内容の充実及びグループ経営の強化を図るため、非連結子会社であった大同不銹鋼(大連)有限公司、韓国ナスロン株式会社及び日精テクノ株式会社を連結の範囲に含めております。

※2. 第92期の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。



推進し、高機能・独自製品の機能・能力増強と持続的成長のための生産基盤の強化を図ります。また、THAI SEISEN CO.,LTD.の機能を強化し、国内外の最適生産体制の構築を進めてまいります。

金属繊維部門においては、中国、韓国の現地法人の活用による海外市場への拡販、高精度化する需要に応える商品開発を進めるとともに、半導体関連市場の需要増に対し、超精密ガスフィルター（NASclean<sup>®</sup>）の安定したサプライチェーンの構築を進めてまいります。

サステナビリティ経営における課題としては、生産プロセスで排出されるCO<sub>2</sub>や廃棄物の削減といった社会的な責務を意識し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。また、高機能・独自製品の安定提供を通じてサステナブル社会に貢

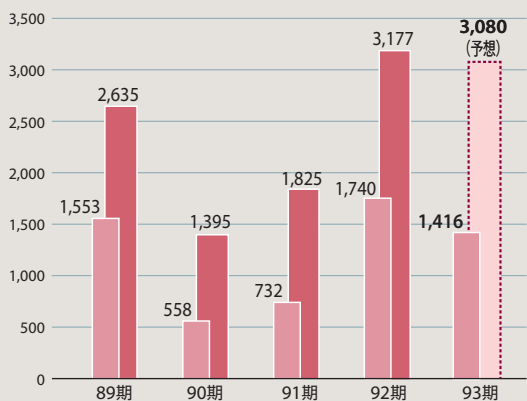
献することも当社の責務と認識しています。事業継続マネジメント（BCM）の再構築や働き方改革など、リスク管理やガバナンスなどの体制強化にも鋭意取り組んでまいります。

以上の諸施策を確実に実行することにより、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより「さらなる企業価値の向上」を目指してまいります。

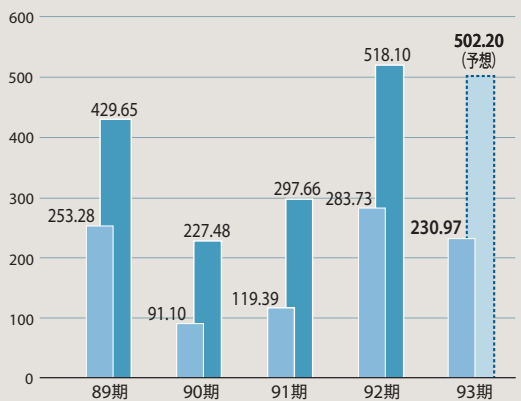
なお、2023年3月期の連結通期業績につきましては2022年7月28日公表の「2023年3月期第1四半期決算短信（日本基準）」の予想どおりに推移しており、業績予想に変更はございません。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■ 当期純利益 (単位:百万円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位:円)



# 連結決算

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結貸借対照表

科目	期別	当第2四半期末	前第2四半期末	前期末
		(2022年9月30日現在)	(2021年9月30日現在)	(2022年3月31日現在)
<b>資産の部</b>				
流動資産		36,410	31,742	34,685
現金及び預金		15,302	14,631	15,640
受取手形及び売掛金		9,351	8,500	9,170
電子記録債権		939	864	840
商品及び製品		2,978	2,292	2,354
仕掛品		4,577	3,631	4,060
原材料及び貯蔵品		2,976	1,608	2,398
その他		285	213	220
固定資産		16,787	16,412	16,545
有形固定資産		14,677	14,019	14,423
建物及び構築物(純額)		5,253	4,921	4,933
機械装置及び運搬具(純額)		6,574	6,386	6,380
土地		1,645	1,621	1,637
リース資産(純額)		20	24	23
建設仮勘定		596	454	834
その他(純額)		586	610	614
無形固定資産		203	233	229
投資その他の資産		1,906	2,159	1,892
資産合計		53,197	48,155	51,230

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期末	前第2四半期末	前期末
		(2022年9月30日現在)	(2021年9月30日現在)	(2022年3月31日現在)
<b>負債の部</b>				
流動負債		11,551	9,136	10,886
支払手形及び買掛金		8,838	6,410	7,470
短期借入金		272	328	355
未払法人税等		705	816	1,086
賞与引当金		741	603	723
役員賞与引当金		—	—	36
その他		994	977	1,213
固定負債		5,035	4,846	4,891
長期借入金		—	105	—
役員退職慰労引当金		—	50	57
役員株式給付引当金		14	—	—
退職給付に係る負債		4,727	4,666	4,672
環境対策引当金		137	—	136
その他		156	24	23
負債合計		16,587	13,982	15,777
<b>純資産の部</b>				
株主資本		35,340	33,775	34,598
資本金		5,000	5,000	5,000
資本剰余金		5,558	5,442	5,442
利益剰余金		25,181	24,181	25,006
自己株式		△399	△849	△849
その他の包括利益累計額		714	△38	363
その他有価証券評価差額金		12	39	15
繰延ヘッジ損益		△3	△0	△1
為替換算調整勘定		789	13	453
退職給付に係る調整累計額		△85	△90	△104
非支配株主持分		556	436	491
純資産合計		36,610	34,172	35,452
負債純資産合計		53,197	48,155	51,230



## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	(単位:百万円)		
		当第2四半期(累計) (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
売上高		24,712	21,408	44,795
売上原価		21,023	17,424	36,851
売上総利益		3,689	3,983	7,944
販売費及び一般管理費		1,746	1,600	3,348
営業利益		1,942	2,383	4,596
営業外収益		112	105	237
営業外費用		15	16	233
経常利益		2,039	2,473	4,599
特別利益		2	0	68
特別損失		—	—	24
税金等調整前四半期(当期)純利益		2,042	2,473	4,644
法人税、住民税及び事業税		622	749	1,467
法人税等調整額		△ 22	△ 37	△ 42
四半期(当期)純利益		1,441	1,760	3,219
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益		25	20	41
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益		1,416	1,740	3,177

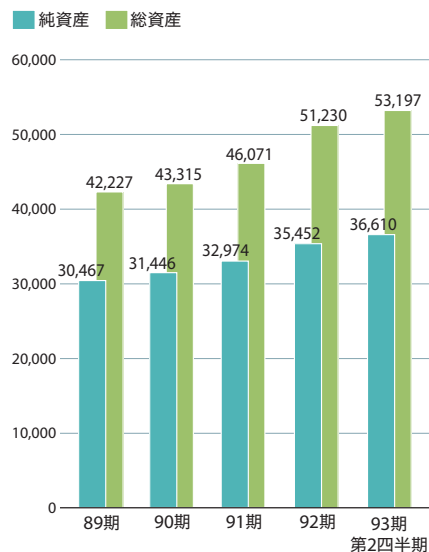
## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	(単位:百万円)		
		当第2四半期(累計) (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	前期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,264	2,288	4,473
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,049	△597	△1,700
財務活動によるキャッシュ・フロー		△772	△620	△1,337
現金及び現金同等物に係る換算差額		174	△ 2	192
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△383	1,067	1,628
現金及び現金同等物の期首残高		14,928	13,299	13,299
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		14,545	14,366	14,928

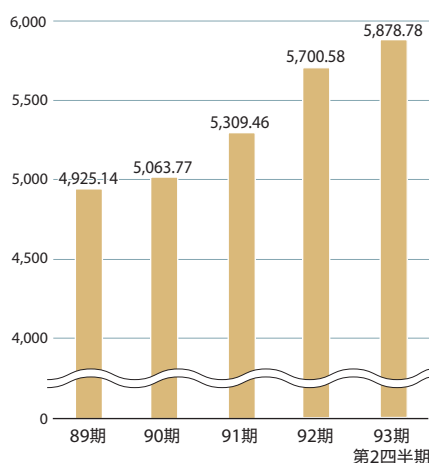
## ■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



## ■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



# 会社の概況

(2022年9月30日現在)

## 会社概要

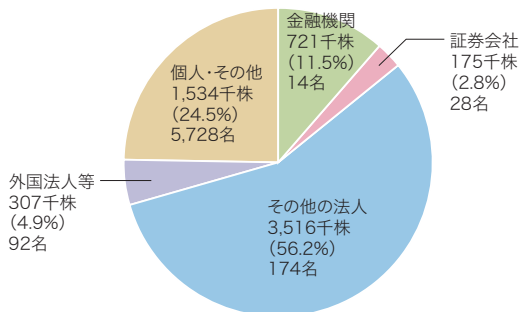
商号 日本精線株式会社  
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)  
設立 1951年6月30日  
資本金 50億円  
従業員数 607名  
ホームページアドレス <https://www.n-seisen.co.jp/>

## 当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン®)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

## 株式の状況

- 発行可能株式総数 25,000,000株
- 発行済株式の総数 6,253,038株
- 当第2四半期末株主数 6,036名
- 所有者別株式分布状況



## 当社グループの主要な事業所

### ■当社

本社	大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店	大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)・名古屋(名古屋市中区)
工場	枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)

### ■連結対象子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO.,LTD.	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司	80%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連
韓国ナスロン株式会社	100%	韓国ソウル
日精テクノ株式会社	100%	大阪府枚方市

### ■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	3,117 <sup>千株</sup>	50.37%
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	426	6.89
前尾吉信	112	1.81
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	102	1.66
特殊発條興業株式会社	66	1.07
A S A D A 株式会社	60	0.96
S M B C 日興証券株式会社	59	0.95
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口4)	56	0.90
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口E)	55	0.90
日本精線従業員持株会	50	0.82

(注) 1. 持株比率は自己株式(64,280株)を控除して計算しております。  
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 役員 (2022年9月30日現在)

### 取締役及び監査役

(\*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	新	貝	元
*取締役	高	橋	一朗
*取締役	加	藤	泰資
取締役	花	井	健
取締役	滝	沢	正明
取締役	温	品	昌泰
取締役	内	山	由紀
常勤監査役	若	松	壮一
常勤監査役	津	田	俊之
監査役	鈴	井	伸夫
監査役	長	谷	川正

### 執行役員

常務執行役員	加	藤	泰資
常務執行役員	小	林	真
常務執行役員	高	橋	一朗
常務執行役員	越	智	隆裕
執行役員	大	塚	雅彦
執行役員	谷	口	政広
執行役員	山	田	和仁
執行役員	松	田	潤
執行役員	木	寅	潤一
執行役員	佐	々	木俊明

## 株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	●電話 0120-288-324(フリーダイヤル) ●インターネット <a href="https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html">https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html</a> ●電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324(フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

**NIPPON SEISEN CO., LTD.**

---

